



ヘイケボタルの保護活動

10月14日 ほたる館情報
ヘイケボタル 1匹

ヘイケボタルはゲンジボタルに比べてエサの種類も多く、成長も速く、寒さや乾燥にも強く、繁殖力も旺盛で、沖縄を除く全国に生息しています。しかし、今激減の危機にさらされています。それは、稲づくりが近代化し、田んぼの環境が急変（化学肥料・農薬・早期の落水など）したことが大きく影響していると言われています。

ところで、ヘイケボタルは田んぼの生き物と思われていますが、元々は湿原に生息していたようです。北海道では、今でも川や湿原に生息しています。従って、ゆるやかな流れの水路であれば、繁殖することができます。

愛知県阿久比町では、町全体でヘイケボタルの保護活動に取り組まれています。また、滋賀県守山市では冬水田んぼ（冬の間も田んぼに水を入れておく）でヘイケボタルの保護活動をされています。

現在、ヘイケボタルの保護活動の取り組みが、徐々に広がってきているようです。

参考文献：「田んぼの生きものたち ホタル」大場信義著

ほたる館の仲間たち



タゴガエル

漢字で書くと「田子蛙」だが、田んぼには暮らしておらず、山地に多いカエル。名前の「田子」は両生類学者の田子勝弥氏に由来する。日本固有種。

ホタル一口メモ

ゲンジボタルもヘイケボタルも幼虫はエラを持っているが、形は全く異なる。その理由は？

ヘイケボタルの幼虫のエラの形は、細くて萎れたようになって折れ曲がっていますが、ゲンジボタルのエラは、太くてぱんぱんに張っています。

その形が異なる理由は、生息に必要な酸素量が違うからだと考えられます。ヘイケボタルは、少ない酸素量でも生息でき、ゲンジボタルは多くの酸素を取り入れないと生きていけないのです。そのため、ゲンジボタルの幼虫のエラはぱんぱんに張って表面積を大きくしていると考えられます。生息に必要な酸素量を考えると生息場所がヘイケボタルは止水域、ゲンジボタルは流水域というのも納得できます。

11月のイベント

- ① ホタルと連鶴の折り紙教室
11/13 (土) 13:00~14:00
- ② 親子で学ぶ昆虫学入門
「昆虫の名前の由来」
11/20 (土) 14:00~16:00
- ③ 生き物講座
「カッター君となかまたち」
11/27 (土) 14:00~16:00

※11月3日(水祝)より募集開始
※中止になる場合があります。
ご了承ください。

北九州市ほたる館

住所 〒803-0864 北九州市小倉北区熊谷2丁目5-1
 開館時間 9:00~17:00
 入館料 無料
 休館日 火曜日(祝日の場合はその次の平日)
 年末年始(12/29~1/3)
 HP <https://hotarukan.jimdofree.com/>
 西鉄バス45番・49番 第一熊谷町から徒歩5分
 お問い合わせは TEL 093-561-0800



ホームページ



Facebook



Instagram

